

「出版クラブだより 2004 年 10 月号」

出版社と編集プロダクションのありかた

- - 日本編集制作会社協会、「全国合同研修会 2004 in 東京」を開催 - -

平成十六年十月二十一日、日本編集制作会社協会（AJEC）は、日本出版クラブ会館の大会議室において、「出版社と編集プロダクションのありかた」と題して、「全国合同研修会 2004 in 東京」を開催しました。

この研修会は、東京をはじめ全国各地の有力編集プロダクションのかたがたにご出席いただき、お互いの経営上・営業上のテーマや業界の動向を勉強するとともに、大手出版社の編集トップのかたがたに我々編集プロダクションへの期待像を率直に語っていただき、相互理解・情報交換と親睦、さらに今後の我々の進むべき指針を探ることを目的にしたものです。

とくに今回は第一回ということで、料金問題、フリーペーパー、地方出版、出版流通、版元と編プロのありかたなど、幅広くテーマを取り上げました。

参加者は、北海道から九州までの地方の編集プロダクション十五社のメンバーを加えて、総勢七 名を超えました。

第一部では、午後一時 分から二時二 分まで、「出版社は外注編集費をどう決めているか - - 部数と定価、外注編集費の関係 - - 」と題して、日本編集制作会社協会・理事長であり、編集プロダクション(株)アーク・コミュニケーションズ・代表取締役であり、さらに先般『出版をめぐる冒険』（著者：長岡義幸）を発行して注目された(株)アーク出版・代表取締役でもある檜森雅美氏が講演されました。

第二部では、午後二時三 分から四時 分まで、三つの分科会に分かれ、幅広いテーマを勉強しました。

まず A 分科会では、「フリーペーパーの新しい展開」と題して、凸版印刷株式会社の情報出版事業部のかたに、「フリーペーパー配布ルート一覧」「フリーペーパー関連アンケート」といった凸版印刷さんならではの緻密で詳細なデータ資料をもとに、急速に普及しているフリーペーパーの現状と今後を展望していただきました。

また、B 分科会では、「地方の出版社が向かう道」と題して、岡山県の出版社(株)吉備人出版の代表である山川隆之氏に、地方出版に賭ける思いと情熱を語っていただきました。

「その土地のことは、やはりその土地に暮らしている人が一番よく知っていると思います。歴史や文化、自然など、その土地に根付いて長年研究している人もたくさんいます。子育てや教育、医療、環境など伝えておかなければならないこと、残しておかなければならないこともたくさんあります。そういった同時代を生きる地域の人々の思いを伝え、記録するのが地域の出版社の役割であり、仕事だと考えています」と山川氏は述べておられます。

さらに、C 分科会では、「出版流通の現況 - - 書籍販売・雑誌販売・マルチメディア商品の販売 - - 」と題して、シリーズ売れ部数千六百万部を超えた『ハリー・ポッター』の出版流通面での仕掛け人である(有)ブックストラテジーサービス・代表の豊田哲氏に、その成功の秘密や新しい出版流通のあり方、マーケティングについて、ご本人の経験と実績を

踏まえて具体的に語っていただきました。

第三部は、午後四時十分から六時 分まで、「わたしたちはこういう編集プロダクションを求めている」と題して、まず(株)部小学館・出版局・家庭編集チーフプロデューサーである田中修氏に、いまの編集部の活動内容や抱えているテーマ、実際の編集プロダクションとの仕事の進め方などを紹介していただきながら、期待する編集プロダクション像を語っていただきました。

次に、(株)幻冬舎・編集本部・第二編集局・局長の福島広司氏に、新しく進出した実用書部門の背景や考え方、他社との差別化などを話していただき、著者の紹介を含めて編集プロダクションに熱い期待を持っていることをアピールされました。

お二人の講演はたいへん具体的かつ明解で、一部シークレットな情報やホットなお話を含めて、我々編集プロダクションへの期待を強く表明されておられました。

そのあと、二 分ほどの休憩をはさんで、日本出版クラブ会館・宴会室のパピロスに移り、ビュッフェスタイルの懇親会を開きました。

会場には、地方から来られた編集プロダクションのかたはもちろん、まだ日本編集制作会社協会に加盟されていない東京の編集プロダクションの代表のかた、さらには(株)小学館さん、(株)幻冬舎さんの若い編集者のかたもたくさん参加され、名刺交換やお互いの紹介、情報交換に、会場は終始賑やかな雰囲気になりました。

日本編集制作会社協会は、今年で二十一年目を迎えた、編集プロダクション業界唯一の団体です。「企画・編集・制作」を核として事業を営む編集のリーディングカンパニーが集まり、この間、会員間の親睦と交流、業界内外の情報交換、編集技術の向上を目的とした各種セミナーを通して、「業界の健全な発展とステータスの向上」「業界共通の利益の追求」をめざしてきました。

現在、会員社は正会員、準会員、賛助会員を合わせて八 社を超えています。

活動の柱は「部会」「例会」「委員会」から成り、部会は「一般書部会」「教材部会」「企業出版部会」「デジタル部会」の四部会、例会は各種の経営テーマを取り上げた勉強会、委員会は「経営委員会」「広報委員会」「組織委員会」「教育委員会」の四委員会構成されています。

部会はそれぞれ年に三～四回、例会は編集セミナーと合わせて隔月、委員会は随時開催されます。今回の「全国合同研修会 2004 in 東京」は組織委員会と教育委員会の共同主催で行われました。

本協会の目的と事業は、業界内外の情報交換（部会・例会の開催、「経営白書」の発行、経営研修の開催）、適正料金の設定と普及（「編集制作料金基準」の作成）、編集者の養成と社員教育（各種「編集セミナー」などの開催）、編集技術の顕彰（「AJEC賞」などの表彰）、業界のPR・広報（「編集制作プロダクションフェア」の開催、エディターズ・ダイアリー、会員ガイド、会報などの発行）となっています。

近年ますます編集制作会社への期待が高まり、その存在が注目されてきております。それにとまって、我々日本編集制作会社協会の役割も格段に重要になってきました。今後とも業界の期待に応えるべく、がんばって行きたいと思っております。

小林 哲夫（こばやし・てつお）（日本編集制作会社協会・副理事長）